

てっちゃんばあばのえび天

二年大島有良

私は、小さな頃からえびが大好きでした。  
それこそ、えびが入って、これは苦手なサラダ  
でも頑張って食べるほどでした。そんなえび  
好きの原点になるのが、今はもう無い、おそ  
ば屋さん、やま和の天井でした。  
このおそば屋さんは、女将さんが私の祖父  
母と仲が良く、私が生まれる前から母方の親  
せき一同で食べに行くほど、なじみ深い店だ  
す。その女将さんは、とても明るく、いつも元  
気で、きさくな人でした。私は、女将さんの  
孫のこっちゃんという子と同級生で、こっ  
ちゃんばあばと呼んでいました。  
そして、私が毎回と言って、良いほど注文し  
ていたのが、大きなえび天と季節の野菜やき  
のこの天ぷらが入った天井でした。丼か、あ  
ふれだし、そろな天ぷらは、小さな私には大き  
すぎるくらい、のボリュームで、夕レととも  
合って、本当に大好きでした。多い時に  
は二週間に一回、ペンは通って、いました。す  
と毎回天井をたのむ私を見て、こっちゃんば



あははいっも楽しそうに笑、とくれました。  
また、私の他にも、同じような人がたくさん  
いました。例えば、お父さんは焼き肉定食、  
お母さんは鴨うどんのつけ汁など、みんなそ  
れぞれで食べるものが決ま、ていました。し  
かし、不思議とみんなあきることなく、通う  
たびにむしろまた食べたいたいと思、うほどでした。  
料理だけでなく、いつも笑顔の、ちやんば  
あはが切り盛りしてるからか、お店全体があた  
たかく、私はそのお店の雰囲気かとも好き  
でした。決して飾らないけど、野の花がいつ  
も小さな花びんにさし、てあ、て、レジの前に  
は常連さんからもら、て千羽鶴があ、て、や  
こそしく、こぼ、とす、私の大好きな場所でした。  
私が小学校五年生の頃、こ、ちやんばあは  
は、クモ膜下出血で七くなり、やま私は閑店。  
私の大好きな味は二度と食べれなくなりまし  
た。けれど、こ、ちやんばあはの料理は、  
確かに私の味覚の一部と、なり、私の忘れられ  
ない大切な思い出とな、ています。